

松阪市ひきこもり支援に力

相談窓口1周年 「養成講座」も開催

松阪市がひきこもり当事者や家族に向けた支援に力を入れている。昨年六月に開設した「ひきこもり相談窓口」は一周年を迎え、予約制の出張相談会も開催。十五日には支援者育成に向け「よりそいサポーター養成講座」を開催した。大西学健康福祉総務担当参事は「ひきこもりや社会的孤立は誰にでも起こりうるもので、声を上げられない人はまだまだいるはず。相談しやすい環境づくりに力を入れる」と話す。(奥村友基)

十五日に同市殿町の市福祉会館で開かれたよりそいサポーター養成講座には、市民四十二人が参加した。参加者は愛知教育大の川北稔准教授や、ひきこもり当事者家族でつくる「みえオレンジの会」の堀部尚之さん、ひきこもり経験者の講演を聴講。孤立の定義やひきこもりのメカニズムのほか、適切な声のかけ方や、当事者の苦しみや思いなどを学んだ。

全ての講義を受けた参加者二十四人には、市職員から修了証が手渡された。修了証を受けた参加者の一部は、市に「よりそいサポーター」として登録。サポーターは今後、地域の見守りや孤立に悩む人の居場所づくりに向け、ひきこもり当事者らの支援活動の運営補助や、定期開催される活動報告会などに参加する。

「よりそいサポーター」として登録。サポーターは今後、地域の見守りや孤立に悩む人の居場所づくりに向け、ひきこもり当事者らの支援活動の運営補助や、定期開催される活動報告会などに参加する。

市民がひきこもりのメカニズムや適切な対応の仕方などを学んだ「よりそいサポーター養成講座」
 松阪市殿町の市福祉会館で



市内の地域振興局やJA支店で開催している。午前十時半～午後三時半で一回の相談は一時間程度。要予約で、定員は各日三人。今月は二十八日に同市大黒田